

3. 調査概要

3.1 調査方法： 可視撮影画像および赤外線撮影画像による解析

3.2 調査者

調査実施会社	有限会社タカが 建材工業
同 担当者	
同 報告書作成者	
同 連絡先	

3.3 調査内容

調査分類	調査項目	調査内容	調査範囲
赤外線画像解析	タイルの浮き・膨れ	位置の確認 浮きタイル枚数の確認(概算)	【病棟】 東面 南面 西面 北面
可視光画像解析	ひび割れ	枚数の測定(概算) 位置、形(特徴)の確認	
	欠損・剥離	位置、枚数等(概算)の確認	【クリニック】 東面 北面
	膨れ・せり上がり	位置、枚数または範囲の確認(概算)	
	その他(白華・錆水など)	発生位置および程度の確認	

※赤外線撮影画像解析とは、外壁タイルやモルタル仕上げ等の浮き部等と健全部の熱伝導の相違によって生じる表面温度差を赤外線サーモグラフィ装置によって測定し、得られた表面温度分布から浮き部等を検出する方法である。

※可視撮影画像解析とは、目視調査が困難である建物部位において、高精度カメラにて撮影した画像を基に、ひび割れや欠損等の損傷箇所を検出する方法である。

熱がスムーズに移動するので仕上材の表面は低温

躯体 仕上材
健全部

空気層が熱の移動を遮るので仕上材の表面は高温

躯体 仕上材
浮き部

温度変化(高温部)箇所がタイル浮きと推定される。

※赤外線画像解析の仕組み
タイルなどの浮きや剥離部分があり、躯体と仕上げ材の間に隙間があると、熱伝導が低い空気層が存在し、その為に表面温度が高くなり、劣化箇所の推定ができます。

5.1 調査結果図

5.1.1 調査画像座標



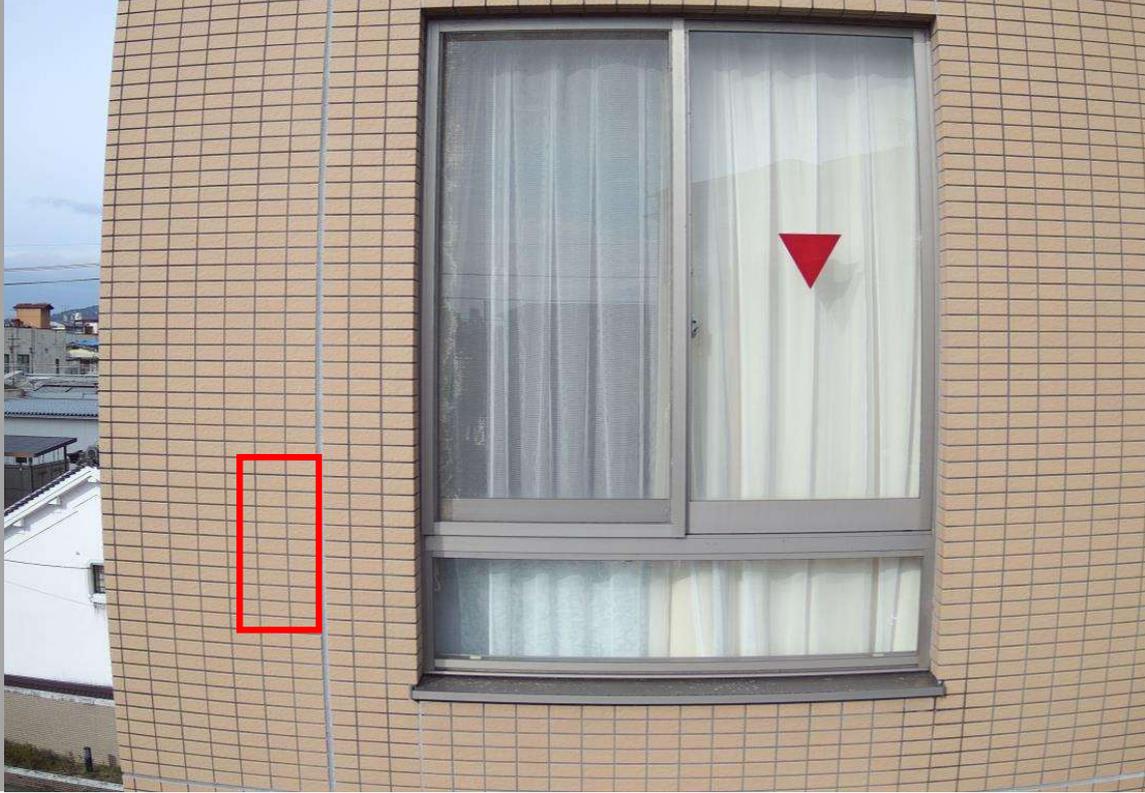
— 東面 —

損傷		凡例/画像番号	
ひび割れ	ひび割れ、汚損、欠損 他	可視光画像	

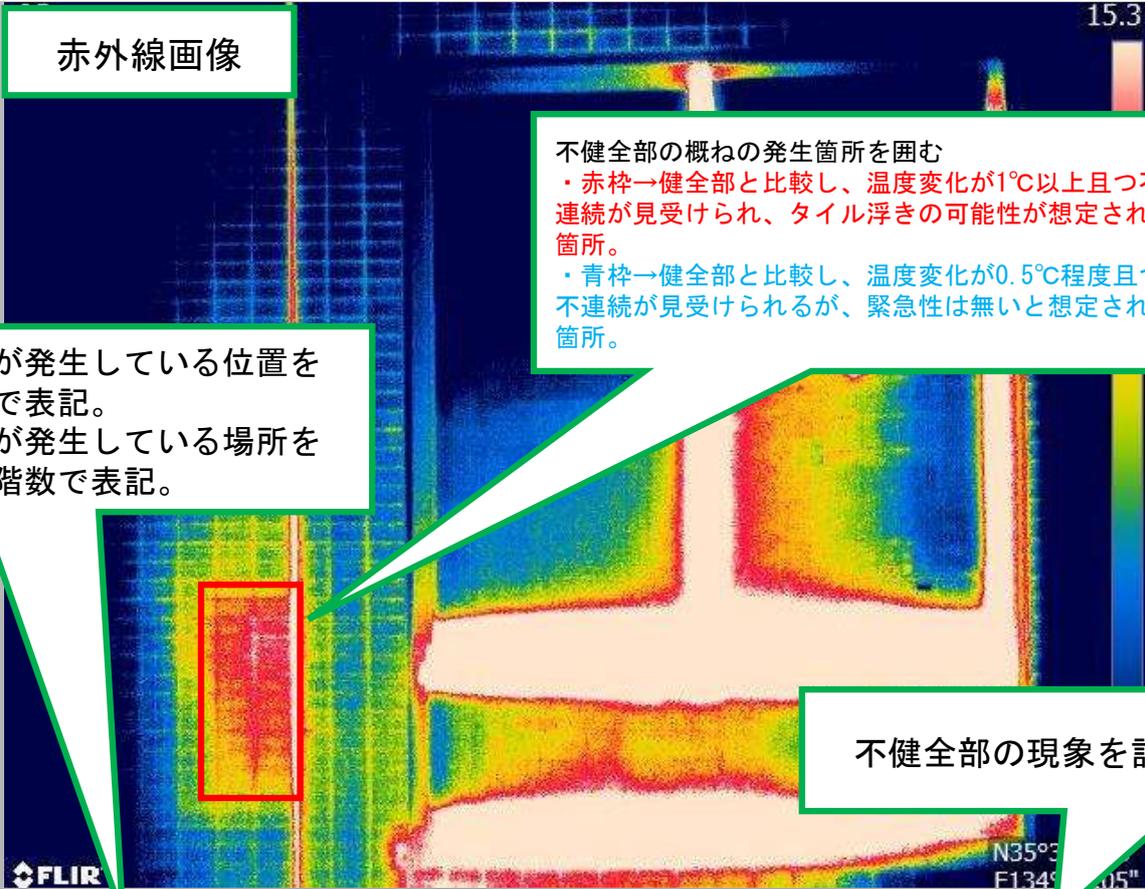
5.2調査画像
5.2.2赤外線画像

可視光画像

凡例

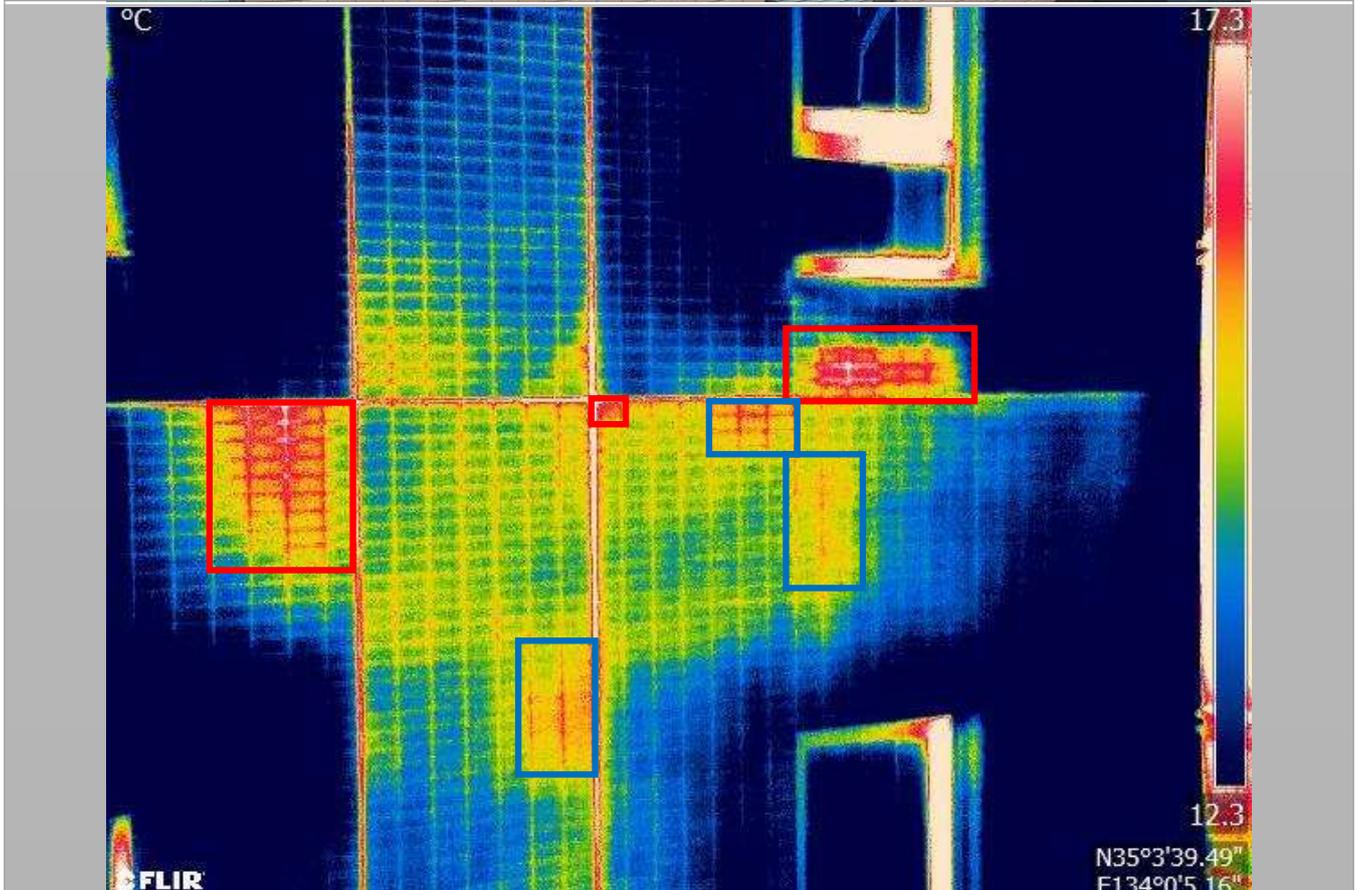
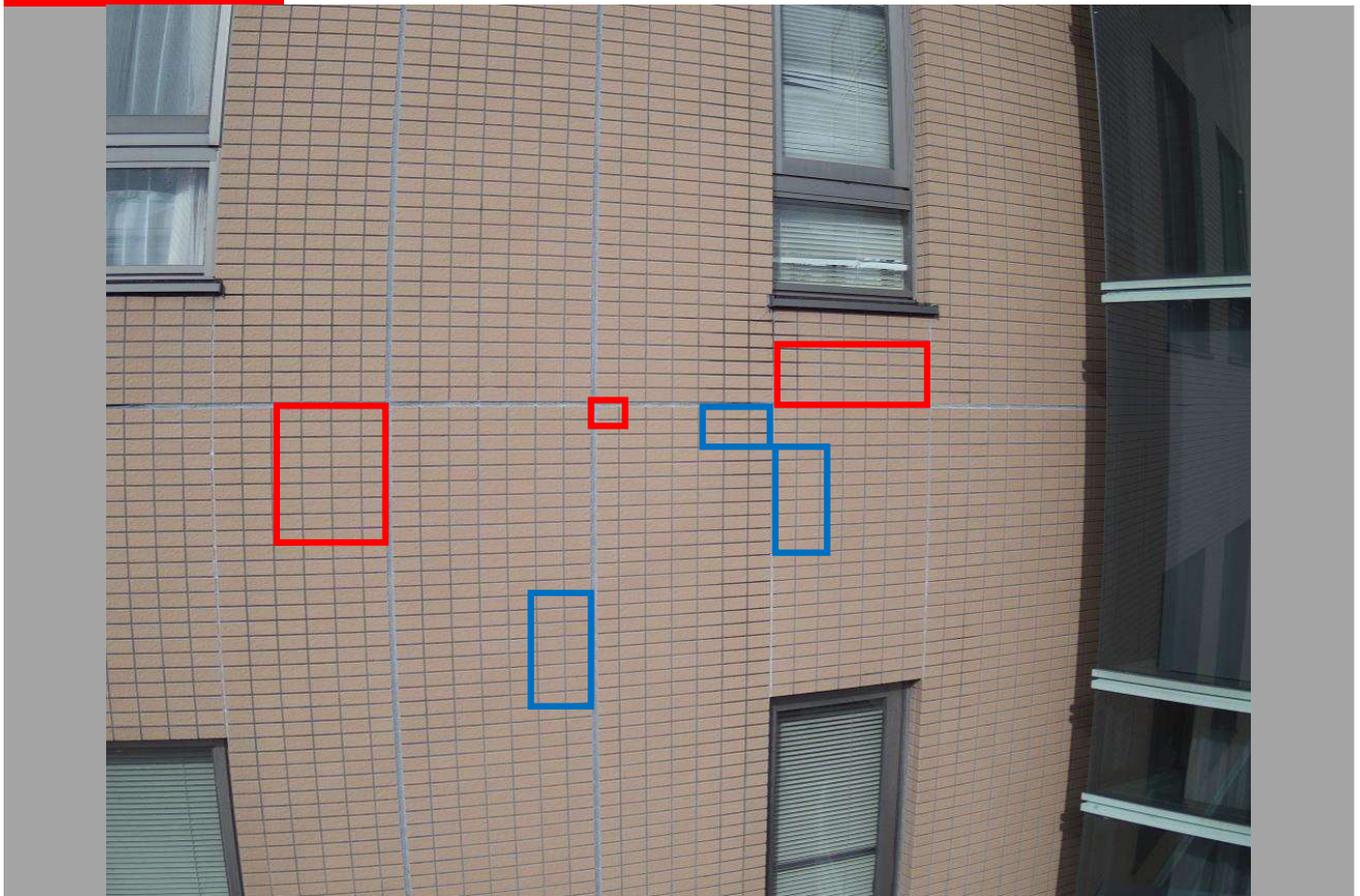


赤外線画像



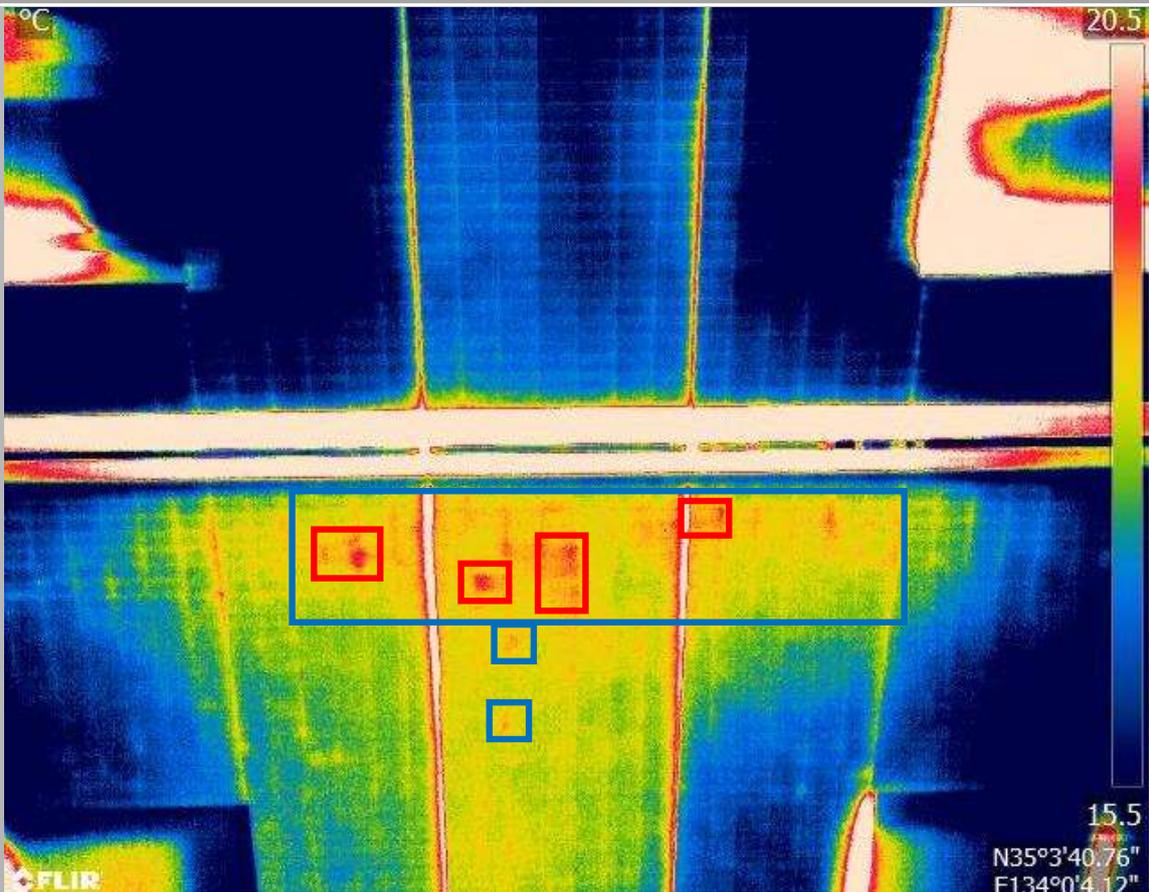
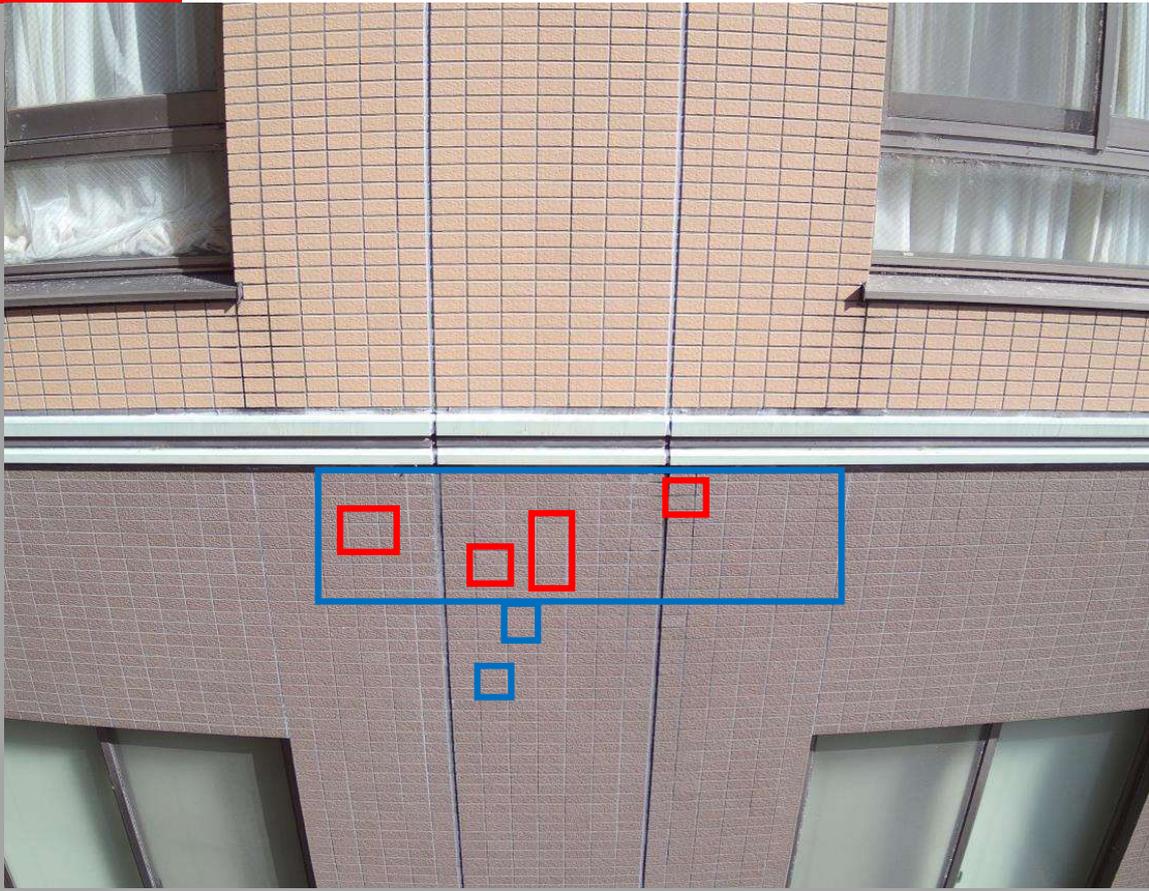
写真座標	A3	タイル浮きの兆候を示す温度分布有（約30枚）
場所	東面3階	

5.2調査画像
5.2.2赤外線画像



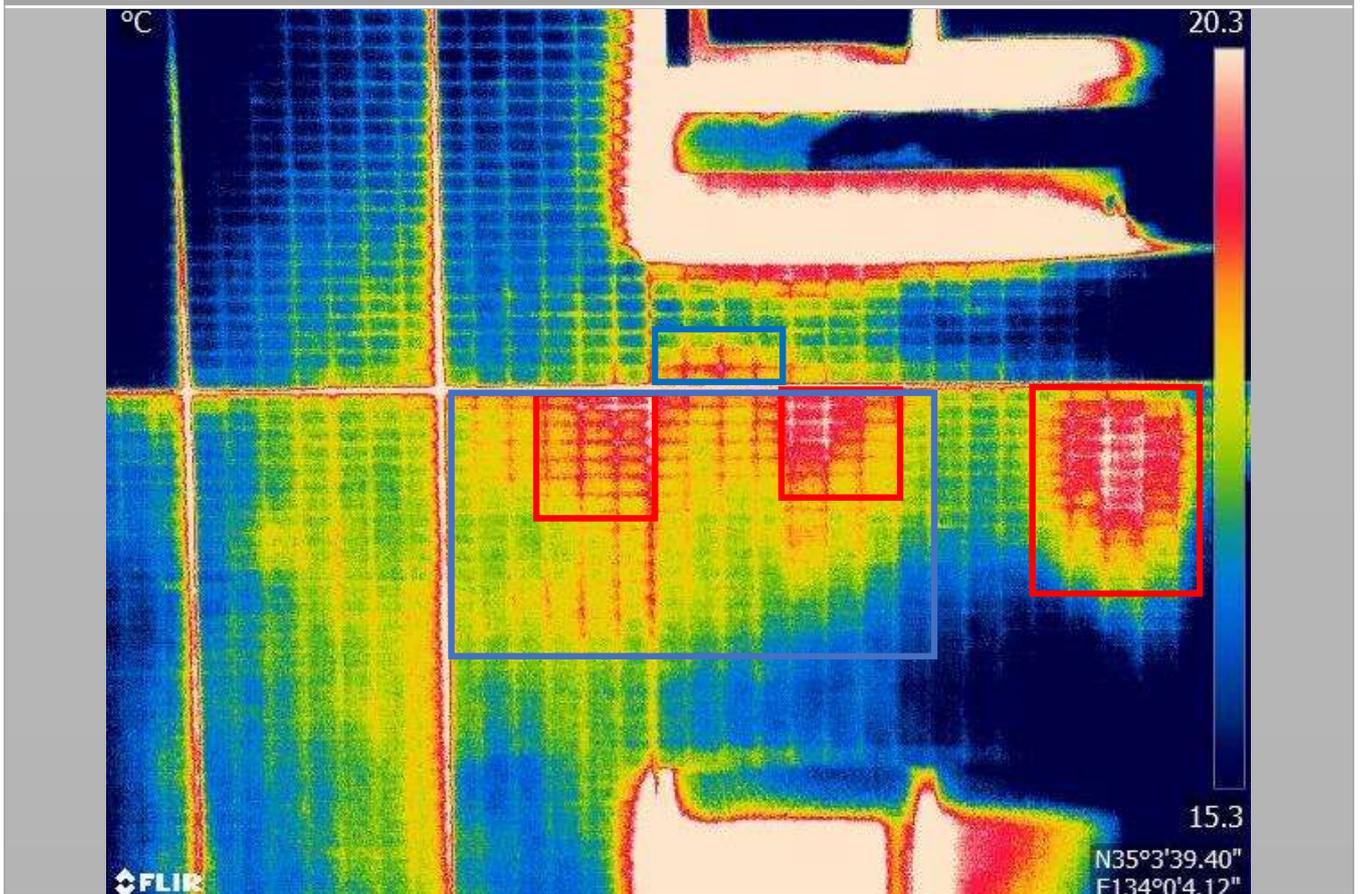
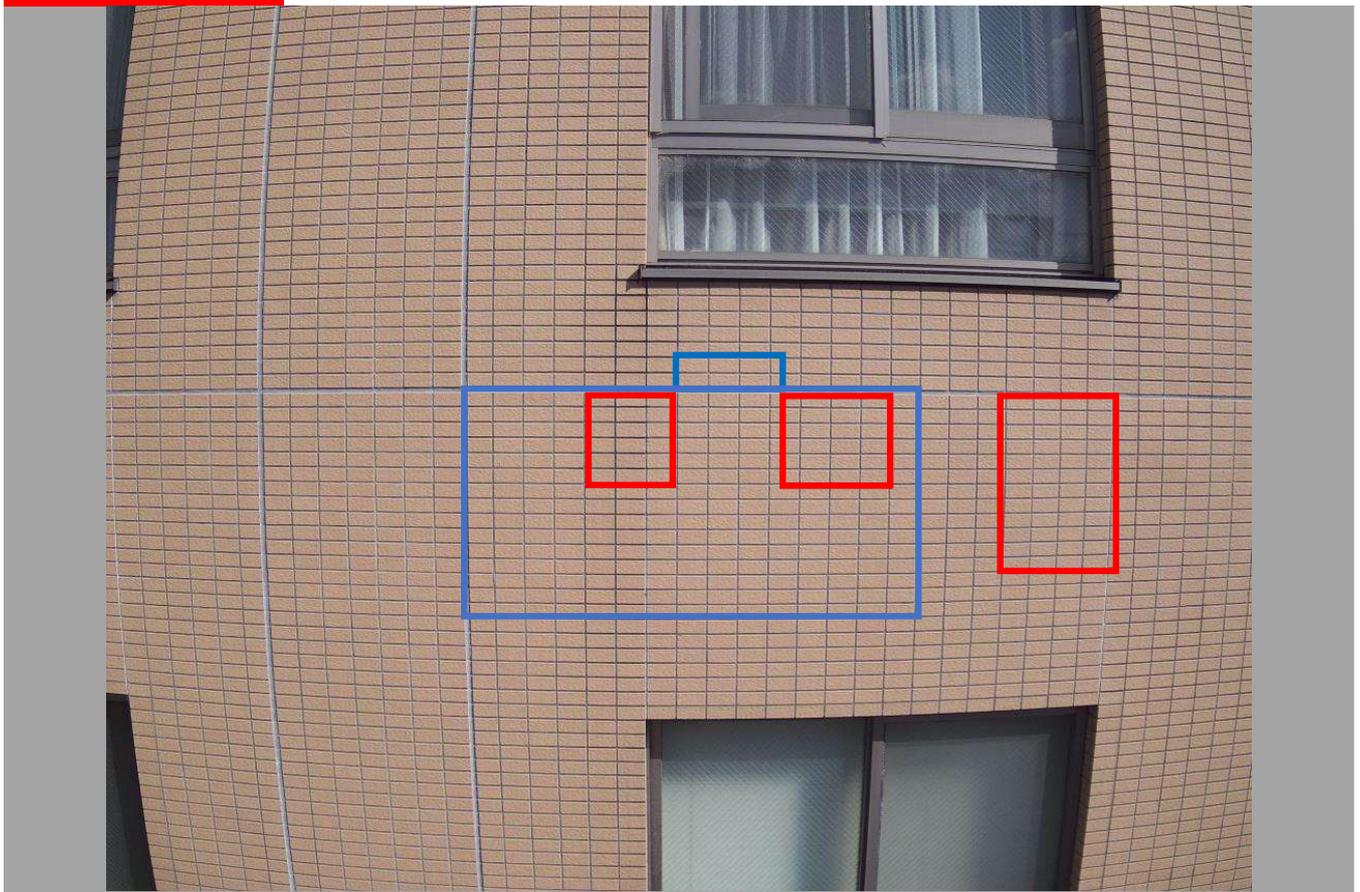
写真座標	E2-3	タイル浮きの兆候を示す温度分布有（約60枚）
場所	東面2-3階	

5.2調査画像
5.2.2赤外線画像



写真座標	C1	タイル浮きの兆候を示す温度分布有（約10枚）
場所	西面1階	

5.2調査画像
5.2.2赤外線画像



写真座標	P2	タイル浮きの兆候を示す温度分布有（約90枚）
場所	西面2階	